研究者は何を選択するか－購読料・投稿料そして機関リポジトリ

UniBio Press代表・SPARC室員・社団法人日本動物学会事務局長

20051122

金沢大学図書館

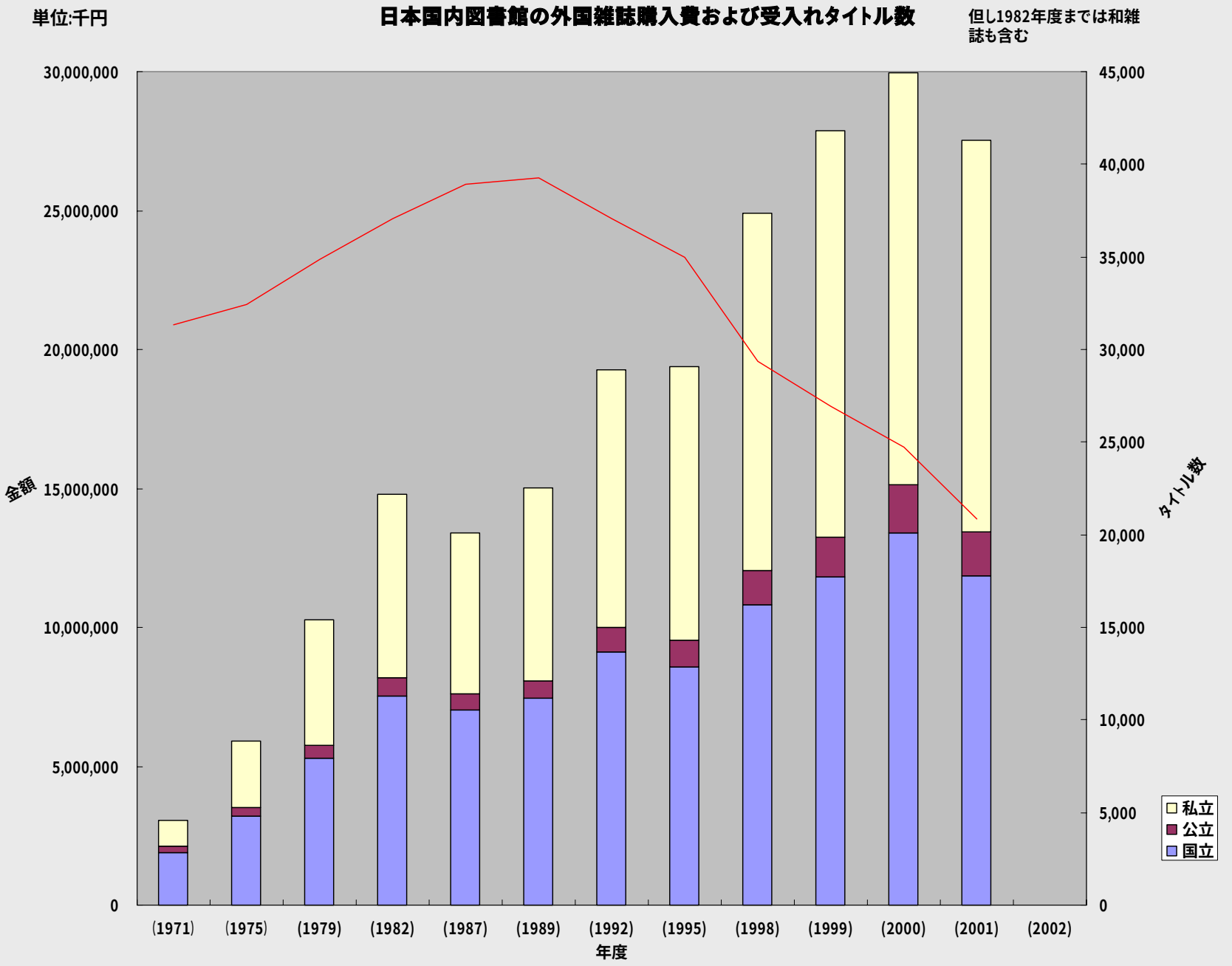
永井　裕子

２０世紀の後半における学術情報流通の変貌は、

- 学術･科学研究の量的増大に起因する学術情報流通の商業化とその結果としてのシリアルズ･クライシス
- 電子計算機、ネットワーク技術の展開による社会の電子化を基盤とする学術雑誌の電子ジャーナル化

という二つの事態が複雑に絡み合うことによって生じたと考えることができる。

土屋　俊　Libraries Today Vol.42,No.1学術情報流通の最新の動向


単位:千円
日本国内図書館の外国雑誌購入費および受入れタイトル数
但し1982年度までは和雑誌も含む
30,000,000
25,000,000
20,000,000
15,000,000
10,000,000
5,000,000
0
金額
45,000
40,000
35,000
30,000
25,000
20,000
15,000
10,000
5,000
0
タイトル数
(1971)
(1975)
(1979)
(1982)
(1987)
(1989)
(1992)
(1995)
(1998)
(1999)
(2000)
(2001)
(2002)
年度
私立
公立
国立

生物系学協会の状況ー購読料モデルは存在したのか

- 小さな学会がいくつも存在。生物系の多様性を反映？ー物理学会、化学会、では生物学会は？
- 学会間の話し合いは？ー生物科学学会連合の活動は生物学全体を統括できるか
- いくつものジャーナルの存在。
  何誌あるのだろうか？

学術会議WEB上　１５７４学会うち１００から１０５学会が生物系学会？？（２００５．７．１５）

国内雑誌は図書館に講読されていたのか？？

日本の学術誌は販売されていなかった？

- 学会誌は会員のためにあるものであり、会誌を販売するという意識はなかなか育たなかった。いや、むしろ、会員であることでの差別化をしていた。
- 一方で、海外への認知度を上げたいという意識は早くからあり、商業出版社に販売を委託した学会もある。

しかし、国内では、図書館側は、日本の学会誌を視野には入れていなかった。いや,学会は図書館を視野に入れていなかった。

日本の生物系ジャーナルの状況

およそ4つに大別できる

- 海外商業出版社からの発信（営利）ｺｽﾄ回収モデル？

- UniBio Press（ＳＰＡＲＣ選定誌・非営利）ｺｽﾄ回収モデル？
  購読図書館数をいかに増やすか

- 電子ジャーナルはJ-STAGE,
  電子ジャーナルで海外発信という目論み？
- 冊子体のみ発行-会員内での購読？

Zoological Scienceの０A化を目指す（投稿料ﾓﾃﾞﾙで考える）

○投稿料モデル－１冊の出版費　平均１３０万円　１０論文掲載　　１論文につき１５万円

論文を投稿するときは、オープンアクセス誌に投稿し、しかも１５万円を支払える。しかもそのジャーナルとしてＺＳを選ぶ研究者を常に抱え続ける必要がある。できるだろうか？

科学研究費は唯一伸びている？？ー学協会補助はどうなる？

- 平成１３年度　１６１億円（１１．３％）１５８０億円

過去最高の伸び！

- 平成１４年度　１２３億円（７．８％）１７０３億円
- 平成１５年度　　６２億円（３．６％）１７６５億円

厳しい財政事情の中---

- 平成１６年度　　６５億円（３．７％）１８３０億円
- 平成１７年度　　５０億円（２．７％）１８８０億円
- 平成１８年度マイナス予算？？

ＪＳＰＳ平成１９年度からの変更点

- 過去3年間、外国籍又は海外の研究機関の所属の研究者からの投稿論文の掲載がなく、かつ海外での有償頒布がないもの
- 学術誌の発行必要経費に対する、刊行する学協会等の自己財源による充当の比率が、原則として半分に達しないもの。（「ｵｰﾌﾟﾝｱｸｾｽ」に対応しようとするものは除きます）

さて、オープンアクセスおさらい

- JISCが作成したペーパー（配布資料）

- オープンアクセスを実現する二つのモデル
  ○著者負担モデルージャーナル全体の1％

  ○機関リポジトリーＲＣＵＫのいう An appropriate e-print repository

Nature 20040901

The best business model for scholarly journals: an economist's perspective

The answer to the question "What is the best business model for scholarly journal? "depend on who is asking.

しかし、絶対に変わらないものがある

- 学術情報の主体は、研究者である。

学術情報を生み出し、時に仲間の研究論文を査読し、批判し、そして納得したものを発信し、また

同時に、発信された情報をその受け手となって読み、自らの研究のために利用し、また批判し、また情報を生み出す。

研究者セルフアーカイビングに関するプレ調査 (動物学会)

- すでに、UKではAlma Swan (Key Perspective社) の包括的調査がある。
  http:eprints.ecs.soton.ac.uk/10999/01/jisc2.pdf

動物学会調査

- 80名の回答

教　授	24名	助手	11名
助教授	21名	その他	14名
講師	9　名	無回答	1名

オープンアクセスを知っているか

- はい　　４８名
- いいえ　２９名
- 無回答　　３名

- 所属機関、図書館がオープンアクセスについてあなたの注意を喚起したことがあるか
- はい　９名　いいえ　７０名　無回答　　１

あなたはオープンアクセスジャーナルを刊行している団体または刊行されている雑誌タイトルをご存知ですか

- はい　17名
- いいえ　60名

雑誌タイトル　PNAS、JBC、　PlosBiology
　　Genome　Biology、Marine　Biology

刊行団体　　日本細胞生物学会、PLOS、中国科学院動物学研究所、BioMed　Central

しかし、しかし、なんと！！

- 動物学会　4名
- Zoological Science　2名

と書いた研究者がおられた！！

もう一度おさらいオープンアクセス

- NIH方針
- 12ヶ月以内に
- 著者が望むなら
- PubMed Centralへのリポジトリ

- RCUK方針
- 出版後直ちに
- 義務化
- An appropriate e-print repositoryに

ALPSPの回答（20050805）

- 自由に閲覧できるリポジトリへ、研究成果論文をセルフアーカイビングしなさいという政策は、学術雑誌を悲惨なシナリオへと帰結させることになるだろう。

Association of Learned and Professional Society Publishers. ALPSP response to RCUK’s proposed position statement on access to research outputs. 20050805

図書館と研究者の対話を目指して

- **主体である研究者は何をすべきか一電子ジャーナル時代を迎えて** (SPARC**セミナー第5回アンケートから**)

・日ごろから気になっていた問題について詳しいことが聞けて、疑問が氷解した。

・ 栃内さんの行動をみんなでしたら（できたら）研究者集団への社会の理解、支持はまちがいなく上がるはず。でも、みんななかなか意識を変えてくれないんでしょうね。

図書館と研究者の対話を目指して

・機関リポジトリへの登録をやった者として、既存の雑誌との対立が起きるのではないか？と疑問に思っていたのですが、その現状についてのお話を聞けて、今まさに変化すべく調整しているときであり、その重要性を理解することができました

・インターネットに基づく新しいPublishingの共有化について興味深く聞かせていただきました。

研究者、図書館、学会、出版社

- 既存の学術情報流通システムが変わる可能性。歴史の変わり目にいる我々。
- 国の補助金を受けた研究に関しての説明責任とは何か。ーなぜ研究成果だけ？？？
- 人が選択することであるーこの場合は

研究者がどうしたいか！

そして、図書館が

- ***どうしたいかだ！！***